



書乃坊系里

^ 5
6489



15
6489



加

Handwritten text in cursive script, consisting of approximately 12 vertical lines of characters.



序

010186021598

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 10 lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 10 lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a short note at the end of a page. It is written in dark ink on aged, yellowish paper.

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a short note at the end of a page. It is written in dark ink on aged, yellowish paper.

面影を人のかたきこす

梅の影をこころにうつすもくさのつとむる

花の影をこころにうつすもくさのつとむる

つとむる花の影をこころにうつすもくさのつとむる

つとむる花の影をこころにうつすもくさのつとむる

つとむる花の影をこころにうつすもくさのつとむる

つとむる花の影をこころにうつすもくさのつとむる

つとむる花の影をこころにうつすもくさのつとむる

黄山

地味

赤瓦

吹雪

李嶺

梅程

梅程

つとむる花の影をこころにうつすもくさのつとむる

つとむる花の影をこころにうつすもくさのつとむる

つとむる花の影をこころにうつすもくさのつとむる

つとむる花の影をこころにうつすもくさのつとむる

つとむる花の影をこころにうつすもくさのつとむる

つとむる花の影をこころにうつすもくさのつとむる

つとむる花の影をこころにうつすもくさのつとむる

鳥津

月夜
 夕風
 大年
 碧史
 松良
 駐松
 竹藪

昌川
 茂松
 柳枝
 何意
 阿菟
 南敵
 花尖
 松烟
 松
 梅
 言
 乳
 柳
 花
 七

松をくきてはうまの池の場 美山
 梅嶺くさく際らや二日矣 修竹
 香の煙くくふく白く藪の梅 梨山
 さきくうや飯まを申ふ老女 尤嶮
 舟の海もや布まを申ふ梅の香 對我
 戸はくう煙の煙まを申ふ 素杏
 まくはやまを申ふうくく池の月 茂東
 庭ねくくまを申ふうくく池の月 燈堂

華の煙やとくくくくくくく 美山
 松林まみまらうくくくくく 菴堂
 月代や梅の船を煙まを申ふ 鶴夫
 とのふくくくくくくくくく 二泉
 下りりふくくくくくくくく 危岩
 下りりふくくくくくくくく 岡高
 下りりふくくくくくくくく 象竟
 下りりふくくくくくくくく 修竹

うき世の口説ふあはれ若き那

白耕

まはるのちかきとこの柏原

月梅

引換て心さあぬ鳴るうら

学圃

鶴のしらべのたのしみあはれ

素汀

鶴はゆきしらべのたのしみあはれ

碩茂

色あつたのちかきとこの柏原

五道

草畑の推葉あはれとこの柏原

三孝

鶴のしらべのたのしみあはれ

庭雅

子鹿のしらべのたのしみあはれ

席在

更衣のしらべのたのしみあはれ

無物

志のちかきとこの柏原

一豚

なつてのちかきとこの柏原

桂圃

右身

元日おあなごのついでに 福田衣

可名

まきまきむつやはさのこほり

一 信

ほのくとまきむ登山のまきれく

聖 地

小田竹ようつゝ海わうつた

名

あまのつゝも月まの人の嘆拂

信

鶴のつゝのゆきまのなりまきあま

地

あまあまの橋も彼岸のわらわらあ

名

おらとあまのつゝもぬまきれ 磯

信

磯多れお海うゝめはゆきあの前

地

親のまきまきとやまのあの前

名

うれなまのつゝもかきかき 畑

信

あまのほのつゝもかきかき 神

地

あまのつゝもかきかき 畑

名

あまのつゝもかきかき 畑

信

くさくさ　あまうら　たまきう　海のそら
吉乃比研ハおもゆる　まきもす
あまの　おの　つ　つ　つ　つ　つ
つ　つ　つ　つ　つ　つ　つ　つ　つ　つ
つ　つ　つ　つ　つ　つ　つ　つ　つ　つ

池 丘 池 池 池

あまの　あまの　あまの　あまの　あまの
あまの　あまの　あまの　あまの　あまの
あまの　あまの　あまの　あまの　あまの
あまの　あまの　あまの　あまの　あまの
あまの　あまの　あまの　あまの　あまの

可 標
まき乃女
あま山
まき乃井
一 翁
五 風

山 烟 巾 拂 の あ り ぬ り ぬ り
吹 野

や う じ ょ う 風 ぞ 吹 け 梅 枝 哉
色 采

昔 昔 の 昔 ぞ 吹 け 梅 枝 哉
喜 坡

さ け け け け け け け け け け
梅 子

梅 子 梅 子 梅 子 梅 子 梅 子
司 夫

梅 子 梅 子 梅 子 梅 子 梅 子
忌 介

川 上 へ 梅 子 梅 子 梅 子 梅 子
梅 五

梅 子 梅 子 梅 子 梅 子 梅 子
喜 法

梅 子 梅 子 梅 子 梅 子 梅 子
梅 枝

梅 子 梅 子 梅 子 梅 子 梅 子
了 曉

梅 子 梅 子 梅 子 梅 子 梅 子
岳 甫

梅 子 梅 子 梅 子 梅 子 梅 子
板 生

梅 子 梅 子 梅 子 梅 子 梅 子
自 笑

林のせや田を畑もあふ下を家

蓮 塚

一 暮しやそねふしそねく時き

五 柳

暮ぬ暇も場のつらや初るに

候 堂

かきくはく田や落し入て植はめ

牧 子

薄ら美やとらしくけき川の縁

雨 后

ささく可き汝のくさや軒をさふ

九 豆

け秋や川下落すよあけ家

ふ 道

河原や中へささくよあけの色

三 楓

ささくこれささくもぬまに杜あ

葦 居

ささくよあけやささくよあけ花を照る

芸 里

一 中さよあ押中一ぬぼくら

五 糸

暮風やおねはうわのあつさ

何 来

ささくよあけみし一今年の梅の如き

少 加

大津やふさきの文はをさしあふ

有 福

夕暮のうし 推のこらるるを根の上
 暮仙
 あらわいとちのあふみあふかおりのあ
 暮旦
 翠の深き啼きをききし て庭の虫
 清保
 門よ置板よやうやうとつあふ
 就水
 はめあふる連をうつち 杜の
 五川
 手この山一はくもくうらよあふり
 臨水

川をたまたまききし 堀のき
 梅程

暮のや 碧のふのわらよほし
 芳菴
 松のきをききしよつて梅乃は
 静嘉
 せしきしき日あふの友やき橋
 高角
 瀬のわらるる岩やふらふらあふる
 李西
 まるくや 鴨をききしよつて
 梅水
 夕のや 木のききしよつて
 友之
 海舟のしよつて梅乃はゆふ
 暮水
 夕のききしよつて梅乃は
 倚川

まゝもや赤むらめし地のちやみ

静在

津山やちかきあまのぬはしき

美湖

そこのおやうしうつゝある人のさう

小中

まゝ前の道を平地や園のまゝ

松葉

釣のけるるまな九重の海ふり

而已

まゝを根や水根をひたぬまそとる

李裳

まゝ小鴨うねるうらふまよけ

久三

吹くそお畑のほろりや桃の花

鳥乃

乃こりれいゝやしくや梅のはな

士芳

猿の島あそぶる葉のま

藤雪

心算やまゝとてあつゝのまや取生奪

西甫

こねて出ゝあまのまゆや甲のゆ

蓮舟

原しやおひしをよまをすのら

桃舟

古根のうらまゝのふゆをり福喜軒

松園

あまのこゝろのあまのこゝろをあらは
言ふ

牛柳ののこゝろをあらは
可仙

あまのこゝろのあまのこゝろをあらは
五峰

一二枚ののこゝろをあらは
芝船

あまのこゝろのあまのこゝろをあらは
文丸

あまのこゝろのあまのこゝろをあらは
鳥舟

あまのこゝろのあまのこゝろをあらは
別振

とねのあまのこゝろをあらは
仙然

あまのこゝろのあまのこゝろをあらは
僊老

あまのこゝろのあまのこゝろをあらは
子琴

あまのこゝろのあまのこゝろをあらは
玉枝

あまのこゝろのあまのこゝろをあらは
雨岫

あまのこゝろのあまのこゝろをあらは
知風

あまのこゝろのあまのこゝろをあらは
桂李

喜雀

李山

二均

古巖

鯉魚

帶結

茂榮

道賢

二全

庭甫

危天

其立

三江

喜芝

薰菜

飯時よ人のあはれや年の暮
 花梁
 病ねくも瀧て暮るや新編
 半松
 かまむらや皆碧の橋よ藤の松
 小松
 猶わよと色をさしや又なむり
 素波
 猶細よる日ほほほとて
 鳥津
 矢橋さへくさる都そるる
 星岬
 さむらや福とろく又月の月

引舟を掬うる岸や飛雲
 柿谷
 岸の橋や牧よつとて山は腹
 眉峰
 入口のさやうとてさあはれ
 芙蓉
 麦畑や水たれを橋も山乃家
 星坡
 山嶺く船のさきとて大さき
 枯湖
 舟の舟よぬきんりつ浦の沈
 桑嶋
 水もやまをさうあやうとて
 桑嶋
 早の海よとて田橋の礼
 御河

戸袋よ 蕨のきめる 喜梅の 礼
石 瑞や 毛糸よ 草のつ 九 古糸 鞋
町 白て 毛 風よ 乾くや 礫の 砂
笠よ 疎る 蕨よ くる け 七 年糸
あきく 想を 玉の け 七 年糸
喜 雨

川 白き 毛 七 年糸
川 白き 毛 七 年糸
川 白き 毛 七 年糸
美 山

初 晴や 想の かわく 蕨糸 畑
舟 手 毛 七 年糸
池の ぼる 月よ 七 年糸
尖 天や 毛の 根を 人の 膝つ 寸
指 田の 毛 喉 嚙ま 毛 風よ 上り
身 毛 七 年糸
草 及 瑞よ 割く 毛 七 年糸
喜 雨

ちりちりちりちりちりちりちりちりちり

縁水

日ほひちりちりちりちりちりちりちり

巴原

梅葉れりちりちりちりちりちりちり

李咳

鴨嘴ちりちりちりちりちりちりちり

出文

けりちりちりちりちりちりちりちり

市聖

ちりちりちりちりちりちりちりちり

鳥殺

降りちりちりちりちりちりちりちり

子捨

喜むや木の根ちりちり川嵐

梅雲

うらやまや竹戸梅まをいしの色

十雨

短杖や鳴る戸口よみちりちり

青白

ちりちりちりちりちりちりちりちり

梅處

世の音やみちりちりちりちりちり

玄堂

梅てのちりちりちりちりちりちり

砂郭

柳のちりちりちりちりちりちりちり

甫岳

ちりちりちりちりちりちりちりちり

梅義

かきつばたのさのあをきりてはるあけの

五潮

さゆあけくはるて余はよ梅と花んか

柯笛

お舟よ外らんてあはるきき浦んれ

柯亭

ひらきわくくはのほりあはるの梅

子木

あはれ磯おのあはるくかきくくれ

九山

あはれ日まを包んてあやきりてはる

雲鳴

梅の香あはるあはるあはるこしきりてはる

東宇

あはれてき揚りてはるあはるあはる

何木

あはれあはるあはるあはるあはるあはる

北岨

と日月の上をまはるあはるあはる

羽白

あはれあはるあはるあはるあはるあはる

嘉陽

白魚あはるあはるあはるあはるあはる

其長

あはれあはるあはるあはるあはるあはる

管接

あはれあはるあはるあはるあはるあはる

居之

あはれあはるあはるあはるあはるあはる

山士

音園やまの音のあはれ 杉の山

老人のあはれ 杉の山

ついでにのむ杉のあはれやみどり色 蓮の山

あはれ杉の山

少のほよあはれついでにのむ杉 杉の山

卯のほよあはれのあはれ杉の山 杉の山

あはれのあはれついでにのむ杉の山 杉の山

ゆきむ ^{タナ}杉の山 杉の山

ついでにのむ杉のあはれついでにのむ杉の山 杉の山

あはれついでにのむ杉の山 杉の山

控まり 櫓 舞 ころ 林 乃 とも
その 和 ころ の 舞 舞 の 籠
吹 奏 奏 舞 の 籠 籠 乃 籠
ま 一 ま ころ 籠 籠 籠 籠
籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠
籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠
籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠
籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠

籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠

籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠
籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠
籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠
籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠
籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠
籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠
籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠
籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠
籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠
籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠
籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠
籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠

籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠 籠

湖よつく赤色に暮る敷きつら
日中の星はみゆるを
春の吹雪に歌る歌
女房の面影は何もわづら
さしはさめしうさぬ戸板
窓の光をばし梅の實
かゝ風よ吹きて細る月の入
籠の箱の腰裏よつく
程 喉 症 程 喉 症 程 喉

何れもあつたれを
机をうつて居るは
油しむる心は
はるすれ
是は人の心
老を
程 喉 症 程 喉 症 程 喉

梅子れ屋よりしる湯きりぬ
 巖つゝふあききりぬ 襟のきり
 猶まや 岩よりさる池のきり
 日校へゆ九きりのゆりやまはきりぬ
 名おしハおしほりよはきりぬ
 名おしきりぬきりぬ 雲のきり
 ひとりぬきりぬきりぬきりぬ
 陸地

荏子やわらぬとまある茶の上
 校よりきりぬのちきりぬきりぬ
 神席やまよはきりとおきりぬ
 藤をきりぬきりぬぬきりぬ
 秋のせやや 芦よりぬきりぬ
 卯のきりぬきりぬきりぬ
 初をきりぬきりぬきりぬ
 春のきりぬきりぬきりぬ
 也然

梅 庭
 芹 空
 名 良
 芳 美
 飄 高
 杜 暮
 陸 地

公 成
 鳥 谷
 碩 石
 丸 起
 月 波
 文 海
 大 翠
 也 然

梅のつや人のきこえむらさきの
 枝の夏の影をよもやうにみよ乃餅
 昔もや小島の午刻のまの影
 中よりなほくはれのまら日味れ
 花の院春のまよふまよふまよふ
 夕もまよふや木槿のまよふ海河
 入るまよふはらのまよふと相出まよふ
 夢もまよふくはれのまよふやたそこのまよふ

石 外
 昔 翠
 桃 五
 魚 魚
 木 取
 秀 何
 雲 海

海のまよふまよふくはれのまよふ
 めしはまよふまよふくはれのまよふ
 昔もまよふまよふくはれのまよふ
 花の院春のまよふまよふまよふ
 夕もまよふや木槿のまよふ海河
 入るまよふはらのまよふと相出まよふ
 夢もまよふくはれのまよふやたそこのまよふ

松 朗
 雲 川
 萱 子
 花 川
 杜 源
 石 堂
 松 女
 夢 替

まのくさくさ 雑ふつろくくくくくくく
香生

海の鳴りさき 木の傍し 高き道 河原
市井

あまのついで ちかき ちかき ちかき ちかき
一石

あまのついで ちかき ちかき ちかき ちかき
桃下

あまのついで ちかき ちかき ちかき ちかき
六和

あまのついで ちかき ちかき ちかき ちかき
桐子

あまのついで ちかき ちかき ちかき ちかき
露酒

あまのついで ちかき ちかき ちかき ちかき
奇異

あまのついで ちかき ちかき ちかき ちかき
南徳

あまのついで ちかき ちかき ちかき ちかき
善室

あまのついで ちかき ちかき ちかき ちかき
一海

あまのついで ちかき ちかき ちかき ちかき
碑山

あまのついで ちかき ちかき ちかき ちかき
枝月女

あまのついで ちかき ちかき ちかき ちかき
秋権

あまのついで ちかき ちかき ちかき ちかき
可久

砂よりのきりぎりすのこゝろに 加田和希子

砂 萩

陽を浴びては 浮遊たまはるる 舟のきりぎりす

舟 萩

氣徳とて 色も枝も 木撞りぬ

木 萩

さきのきりぎりす 建つる 舟のきりぎりす

舟 萩

松明のほる 浮ぶる はるの 水

水 萩

よき舟の 帆も 帆も 下 関

帆 萩

〜 浮ぶる 舟の 帆も 下 関

帆 萩

あき〜 舟の 帆も 下 関

帆 萩

波着て 舟の 帆も 下 関

帆 萩

舟代の中よ 帆も 下 関

帆 萩

舟も 舟も 舟も 舟も 舟も

舟 萩

舟も 舟も 舟も 舟も 舟も

舟 萩

舟も 舟も 舟も 舟も 舟も

舟 萩

舟も 舟も 舟も 舟も 舟も

舟 萩

さあのもや田畑うぬふるふれ節

又車

あけをさやぶらぬうこの風をきくま

枕湖

まじりうらと墨をゆりうと除ねの風

松濤女

短く短のゆ際をきり海のうし

蕙百

好きうきうかすう引たり屋根の露

玉鈴

花のほろも囀れあまふまうこうな

いとほ

まよふ眼のちぬうちうんる柳りれ

陸水

あかまやはおろくくある池り泉

袍長

境の泉のかううあうくとまのきり

ふ丈

月を山より露をさかすかうぬまや

雀又

白をこれうけ地をきくまをわうのや

雅琴

夕をさやう産るおまけうる梅むと糸

生和

あめうらや風をうらうらうらうらうら

言常

あめうらうらうらうらうらうらうらうら

越政班

筆や三河よまてる〜きりし
柳嶋

多岐や皆まて居る霧の粒思
霧汀

川原の石草外やちりす〜
成塚

古庵の秋もむら〜
陽意

夕まや庭くま〜
路友

あ〜
里樵

〜
志卜

萩あ〜や控〜
壺重

控〜
壺重

朝〜
水柳

あ〜
吉之

反〜
漢水

〜
壺重

夕〜
壺重

さうの味も梅も皆さき〜雪の年 赤考

一枚のむらりのさやお〜梅もさき 波文

し〜梅のさき〜梅のさき 梅雲

梅もさきよ〜梅のさき〜梅のさき 惟一

梅もさきよ〜梅のさき〜梅のさき 東石

梅もさきよ〜梅のさき〜梅のさき 梅流

梅もさきよ〜梅のさき〜梅のさき 蓮宇

のさ〜梅のさき〜梅のさき 之岳

梅もさきよ〜梅のさき〜梅のさき 一陽

梅もさきよ〜梅のさき〜梅のさき 暮高

梅もさきよ〜梅のさき〜梅のさき 唐崖

梅もさきよ〜梅のさき〜梅のさき 光伍

梅もさきよ〜梅のさき〜梅のさき 吹角

梅もさきよ〜梅のさき〜梅のさき 故文

梅もさきよ〜梅のさき〜梅のさき 松呂

おし梅りやまゝはくちをばり

梅 尻

相一葉ふちまゝはくちをばり

梅 尻

おし梅りやまゝはくちをばり

梅 尻

一板とらおまゝはくちをばり

梅 尻

おし梅りやまゝはくちをばり

梅 尻

おし梅りやまゝはくちをばり

梅 尻

おし梅りやまゝはくちをばり

梅 尻

おし梅りやまゝはくちをばり

梅 尻

おし梅りやまゝはくちをばり

梅 尻

おし梅りやまゝはくちをばり

梅 尻

おし梅りやまゝはくちをばり

梅 尻

おし梅りやまゝはくちをばり

梅 尻

おし梅りやまゝはくちをばり

梅 尻

おし梅りやまゝはくちをばり

梅 尻

おし梅りやまゝはくちをばり

梅 尻

さきさき秋をよみたり秋後 草花

さきさきよみ居れりるるの婦 乙

おもしろいおもしろいおもしろい 乙女

入らぬ日きあふむむ様うれ 出陣

四山の名よあつる子部 子

まろむ我ほらるるよこ 可大

あつるあつるあつるあつる 醒る

うさうさや鮫くほらるるあつる 董秋

あつるあつるあつるあつる 甘隣

あつるあつるあつるあつる 季鯨

月のあつるあつるあつるあつる 似茶

几つかあつるあつるあつるあつる 寸松

あつるあつるあつるあつる 松野

川あつるあつるあつるあつる 末巻

しんせうもきりつむしめれ小板橋 杉

ゆきふりし板よきこの日鏡うす南河田古鏡 杉

たしなむよすかみちをきりし柳 う 藤

ふたばよきし後のとまて月相見 兎 鏡

あなへしし柳きりしつらふら月 山 彦

まきもきりしつらふら月のまきりれ 岡 那

あなへしし柳きりしつらふら月

あなへしし柳きりしつらふら月 杉 山

あなへしし柳きりしつらふら月 杉 彦

あなへしし柳きりしつらふら月 杉 彦

あなへしし柳きりしつらふら月 杉 彦

あなへしし柳きりしつらふら月 杉 彦

あなへしし柳きりしつらふら月 杉 彦

ナホシヨクシノツル一神カ根

若地

津ヨシツミ極キあり其ノツル

津島

ヨシヨシヨシノありたかハ

原峰

ヨシヨシ一極キツルカキヨク

木谷

橋ヨシヨシ極キツルカキヨク

布園

油燈ヨシヨシ極キツルカキヨク

万像

ヨシヨシヨシヨシヨシヨシ

ヨシ人

ヨシヨシヨシヨシヨシヨシ

風橋

ヨシヨシヨシヨシヨシヨシ

五燕

ヨシヨシヨシヨシヨシヨシ

聖子

ヨシヨシヨシヨシヨシヨシ

桑雷

ヨシヨシヨシヨシヨシヨシ

菅居

ヨシヨシヨシヨシヨシヨシ

奈油

月もやまき止るある瀬戸の波
鳥岬
月もやまき止るある瀬戸の波
鳥岬

夕月や霞のさしり地乃屋
田舎

舟の流るる瀬の流るる
甘古

夕月やわが世のさしり
字逸

舟の流るる瀬の流るる
寸毛

夕月やわが世のさしり
悠々

舟の流るる瀬の流るる
平太

夕月やわが世のさしり
妙哉

舟の流るる瀬の流るる
浦四

夕月やわが世のさしり
石狂

舟の流るる瀬の流るる
双鳥

月もやまき止るある瀬戸の波
月悠

汗の匂く春のつめとや春の中
九 美

うき道や何り流して泡乃う九
九 柯

こつとつ流よおとさうし折ん栗
百 鷲

う魚りあてたれいのとく彦の世
如 九

降るもさうせとけつのはら格
系 九

さうりつとりあもさうとや福壽美
美 雲

出何のまて見れハ瀧や小松系
十 基

さうりつとりあもさうとや福壽美
栗 水

海さうりつとりあもさうとや福壽美
如 撲

あやさうりつとりあもさうとや福壽美
布 珪

田古さうりつとりあもさうとや福壽美
三 巴

名おしつとりあもさうとや福壽美
子 巖

瀬のさうりつとりあもさうとや福壽美
喉 子

あしひきの 花の いろは ねの こと
を ぬ

はるあまの 花の いろは ねの こと
水 園

きりぎりすの 花の いろは ねの こと
木 主

あしひきの 花の いろは ねの こと
高 雅

月いづれに 花の いろは ねの こと
柳 下

あしひきの 花の いろは ねの こと
田 二

あしひきの 花の いろは ねの こと
柳 下

あしひきの 花の いろは ねの こと
江 由

あしひきの 花の いろは ねの こと
江

あしひきの 花の いろは ねの こと
大 美

あしひきの 花の いろは ねの こと
京 文

あしひきの 花の いろは ねの こと
園 末

あしひきの 花の いろは ねの こと
章 良

あしひきの 花の いろは ねの こと
然 手

三山をうらうらよきよの柳の籠 糸汀

身うらうらの雲はあもろくしてあはれ 吉阜

さう舞やまゝに舞ひのまきし 舞臺

とくもつとちかめて長りぬおのむらこ 葦里

塔や白くよくめく雲はつと 孤舟

山吹や果を替つふ下りつと 風子

面白やうらうらおちよ一そ吹 晚菘

羽のふの平らうらもゆきうらむ 生芽

湖よりうらうらうのあつと 涼瓜

あしやうらうらおちあつと 梅屋

をいせぬおちあつと 香煎

あつとあつとやうらうらあつと 乙良

あつとあつとあつとあつと 西崎

夕月もあつとあつとあつと 茶山

名 詠をわきまへくほへやうちけり
古 棠

まきとや毛ほりよかきと田作を
ちのち

空のわらわ後めりりのまきけり
谷 吉

りりてまのけりてまのけり
茶 仙

そけのけりてまのけり
松 三

あまの枝のまのけり
田 雅

ほりてやあねをけりてまのけり
有 良

曲やまのけりてまのけり
杜 壺

破屋をけりてまのけり
杉 郎

川の水をけりてまのけり
喜 坡

まきとや毛ほりよかきと田作を
ま 布

子指をけりてまのけり
松 子

まきとや毛ほりよかきと田作を
田 雅

ぬきみーとえうて海をすぬ川は 釜 露

西の月やふとちよなりて一森入 平 露

雪のうや雪の伴ひを春の光 杜 水

御留場の鶴ふえよちり喜の句 鼠 牛

筆やあしうて雪をくさのま 可 轡

里より雪のうらみや海の一ゆきみ 道 苦

余はくまてとえぬまらうる雪の光 雪 庭

春の初め舟しうあそびあうれり 雪 里

古きうやか海の中よあまきむきの 碧 山

初雪や 流のかりのゆたきよ 砂 場

とあのをれほのまよきー 垣 隙

一梅とんのみちをぬや 粉の梅 立 字

雪をよはや降しみて秋の白 激 月

藤のうゑにうらうらと母のり種おろし

たよ女

志のふゆきをうゑてみりし

信氏

おのれがうゑとまはりやまのま

全用

をうゑてうゑてかきたり信徳の

信良

山よりうゑてその種をうゑて

一止

種をうゑてうゑてうゑてのゆきみけり

定七

神種やうゑてうゑてうゑてのゆき

美多

柳のうゑにうゑてうゑてうゑて

文春

引波やうゑてうゑてうゑて

徳山

藤のうゑにうゑてうゑてうゑて

御風

藤のうゑにうゑてうゑてうゑて

中風

藤のうゑにうゑてうゑてうゑて

二五

藤のうゑにうゑてうゑてうゑて

五山

藤のうゑにうゑてうゑてうゑて

五山

藤のうゑにうゑてうゑてうゑて

五山

暁の空のまじりや柳乃をれ
 大古
 波二日静ふなりきり言入り
 其谷
 鳴るや日静ふつきて梅小ほふ
 極名
 鳴るや日静ふつきて梅小ほふ
 二美
 柳揺るこころまじりや
 義香

鳴るや日静ふつきて梅小ほふ
 一 那
 ぬく昔のまじりや
 澄富
 鳴るや日静ふつきて梅小ほふ
 言三
 鳴るや日静ふつきて梅小ほふ
 一 言
 鳴るや日静ふつきて梅小ほふ
 為山
 鳴るや日静ふつきて梅小ほふ
 遠 洞
 鳴るや日静ふつきて梅小ほふ
 西子

うしろのその敷ききこころん

兄介

白の端しや日れきこ通るを名 桓

夫也

持たぬ小片もやあしおのきりくは

丁知

あしはくしきをはしめよるいす

尾村

ちよこよと卒しきぬきも千はうに

茶瓶

はちうきよよぬきんちきやしのど

萬古

ちよこ持のきをてりきよのくおぬき

筆載

あしうちや日ねしきぬききり

梅堂

きしきりしきぬききり

如草

あしうちや日ねしきぬききり

萬古

あしうちや日ねしきぬききり

萬古

あしうちや日ねしきぬききり

白起

あしうちや日ねしきぬききり

完臨

あしうちや日ねしきぬききり

銀窓

あしうちや日ねしきぬききり

昇他

あしうちや日ねしきぬききり

月之

梅の香に酔ひて一帯をさしけり

意切

うらやましく海を渡る舟の始り

波田

さくらさきの香しきと萩の梅を

小松

あつたや 雄の言をたづら

桐古

持のつく扇の香をやあつた

山子

一日を過ぎてはるかにさくら

山方

さくらさきの香しきと萩の梅を

後久

さくらさきの香しきと萩の梅を

氷毒

さくらさきの香しきと萩の梅を

雅子

さくらさきの香しきと萩の梅を

好蕪

さくらさきの香しきと萩の梅を

祖江

梅の香に酔ひて一帯をさしけり

京原

さくらさきの香しきと萩の梅を

抱儀

さくらさきの香しきと萩の梅を

達流

さくらさきの香しきと萩の梅を

由誓

し 筆 也 筆 之 筆 集 の 筆 筆 也 揚 る 丘

は ち ら し 筆 の 筆 筆 筆 筆 筆 欣 尚

筆 筆 の 筆 筆 筆 筆 筆 筆 一 語

筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 北 嶽

月 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 象 竟

筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 梅 程

筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 為 為

子 供 の 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 丘 丘

筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 嶽 嶽

市 此 汗 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 語 語

筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 程 程

上 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 竟 竟

筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 丘 丘

筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 筆 尚 尚

葉小枝を逐はく為し
白目小紋の志すは新落
花より襷をとりて元は
はるなやうにみりする也
鮎波にして能く見る如
平落は海河のよいあり
今様より海をすて片
葉を海をある瓜の部生

法 曉 程 尚 瓜 曉 程 法

ゆきとあはようしちよ人の
顔をのうまきかた全
つとつとあつとある
降るまよあてまよの
うまきまよあてまよの
まよつとあてまよの
刺さのまよあてまよの
拾小眼先へ推のまよ

程 曉 程 尚 瓜 曉 程 法

貴族の子弟は皆を遊ばし
教ふはとてぬ村のれつと
職ありは子の魚油に燈さつと
ゆゑの業を破るゝとて
諸男木の根よりみゆるとて
ひの葉をばらよあぬとて

当 所 燦 法 程 竟

貴族の子弟

あつとてぬ村のれつと
一馬

あつとてぬ村のれつと
あつとてぬ村のれつと
あつとてぬ村のれつと
あつとてぬ村のれつと

一馬

名古屋益屋町

伊藤氏藏板



尾陽經師勘助住立

